

## おたふくかぜワクチン 2 回目接種について

おたふくかぜワクチンの 2 回目接種のタイミングについてのご案内です。

1 回目の接種は 1 歳を過ぎて速やかに接種していただいておりますが、2 回目の接種時期について、本来、周囲での流行がみられていない場合は、年長さんで、麻しん風しん混合ワクチンの 2 期と一緒に接種していただくことを推奨しております。

ただし、周囲で流行が見られた場合は、その限りではなく、最短で 1 回目の接種後から 4 週間でのご案内をしております。

ワクチンは、かからないことを目的として接種をしていただくものです。

2 回目を概ね 4 年縮めて接種してしまって大丈夫でしょうか？というお問い合わせ多くいただいています。早めて接種をしたあと、効果が切れるのも早くなるのではないかとということも併せてお問い合わせをいただいています。

4 週で 2 回目を接種することに医学的な問題はありません。生ワクチンですので、最低 4 週間は間隔を開ける必要はあります。

2 回目までの間隔を短くしまって効果が大丈夫か、ということですが、今、中予地区でおたふくかぜの流行があり、年長さんまで接種を待っている間に罹患してしまう方が多いので、流行している時期には 2 回目の接種を早めて、おたふくかぜにかからないために、早期の 2 回目の接種を勧めています。

2 回の予防接種後（1 回で十分な免疫が出来れば 1 回の接種後でも）、ウイルスに曝露されることが重なれば、自然に抗体は維持されることとなります。おたふくかぜは、麻疹のように接種率がまだ高くなく、時々流行はあるため、早期の 2 回目の予防接種が必要な場合があります。

おたふくかぜワクチンの 2 回目接種の時期をどの時期でされるか、任意接種であるため、強制はできませんので、最終的には保護者の皆さまのご判断でお決めいただければと思います。

院長

### 【周囲でおたふくかぜが流行っていると判断した場合の考え方】

- ① 2 回目の予防接種を一般的に言われる、「1 回目から 4・5 年あけての年長さん」での接種を希望される場合、2 回目を年長さんで接種することにして、1 回目の接種で感染が防げるだけ免疫がついたと信じる。もしくは、おたふくかぜにかからないように注意をする。
- ② おたふくかぜにかからないように、念を押して 2 回目は予定より早く接種する（院長推奨）。この場合、10 年後・20 年後に 3 回目の接種をした方が望ましいという話が今後出るかも知れません。

※おたふくかぜワクチンの 2 回目接種が浸透して、流行がどのくらい抑えられるかなど、経年してみないと今は明確にはわかっていません。